

令和4年度事業報告書

一般財団法人 いも類振興会

1. 事業の概要

わが国の重要畑作物であるサツマイモ、ジャガイモの生産振興と消費拡大等により、国民食料の安定供給に寄与するため、次の事業を行った。

情報活動事業では、従来より当振興会事業の基幹となっている「いも類振興情報」を前年度に引き続き発行した。また、前年度に構築したバックナンバーの記事検索・閲覧システムのデータを更新するとともに、創刊号まで閲覧できるよう充実させた。

調査研究事業では、刊行されている「ジャガイモ事典」、「サツマイモの近代現代史」、「焼きいも事典」、「干しいも事典」、「清薯源流の砦 平成の歩み」を引き続き頒布したほか、「かんしょ品質評価研究会」をウェブ会議形式で開催し、「品質評価試験報告書」として取りまとめ配布した。

知識啓発・普及事業では、前年度に引き続き、農林水産省消費者の部屋における「さつまいも、じゃがいもの週」の展示に協力したほか、「いも類講演会」や各種の情報交換会をウェブ会議方式で開催した。

日本いも類研究会事務事業については、引き続き研究会の事務局業務を行った。

2. 会議等の開催

令和4年度には、次の会議等を開催した。

(1) 評議員会

① 令和4年度定時評議員会（書面決議）

期 日： 令和4年5月30日決議

議 案： 第1号議案 令和3年度事業報告書について

第2号議案 令和3年度財務諸表について

第3号議案 令和4年度事業計画書及び令和4年度収支予算書について

第4号議案 特定資産への繰り入れについて

第5号議案 評議員の選任について

経 緯： 新型コロナウイルスの感染防止等の観点から、令和5年5月13日付けで評議員及び監事全員に提案書を送付し、5月30日までに書面により全員から同意及び確認の意思表示を得たので、定款第18条4項に基づき評議員会の決議があったものとみなされた。

(2) 理事会

① 令和4年度第1回通常理事会

期 日： 令和4年5月13日

場 所： ウェブ会議

議 案： 第1号議案 令和3年度事業報告書について
第2号議案 令和3年度財務諸表について
第3号議案 特定資産への繰り入れについて
第4号議案 令和4年度定時評議員会の開催について

② 令和4年度第2回通常理事会

期 日： 令和5年3月22日

場 所： ウェブ会議

議 案： 第1号議案 令和5年度事業計画書及び令和5年度収支予算書の承認について
第2号議案 謝金の支出に係る内規の制定について
第3号議案 その他

(3) 事業監査

令和4年5月12日に当振興会の事務室において、令和3年度の事業報告書及び財務諸表等について、監事による事業監査が実施され、適正であると認められた。

(4) いも類振興情報編集委員会

期 日： 令和5年1月30日

場 所： ウェブ会議

議 題： 1. 「いも類振興情報」の企画編集について
2. その他

3. 評議員、理事、監事および職員の異動

(1) 評議員、理事、監事

退任 令和4年5月30日 上野幸一 評議員

就任 令和4年5月30日 納口るり子 評議員

(2) 職員

異動なし。

4. 事業実施の概要

(1) 情報活動事業

「いも類振興情報」の発行

- ① 「いも類振興情報」は、国内外のいも類に関わる生産、流通、加工および消費に

ついて収集した情報を編集し、いも類の生産振興、消費の拡大に資することを目的に発行しているわが国唯一のいも類専門情報誌である。

令和4年度も年4回（第151号～154号）発行し、農林水産省、都道府県、試験研究機関、種苗管理センター、農業改良普及センター、植物防疫所、農業協同組合、大学等教育機関、関係団体・企業等へ配布した。

- ② 特集記事として、第152号では「令和3年度いも類講演会より」、第154号では「いも類の新品種紹介」をそれぞれとりあげた。また、一般記事のジャンルとして「行政情報」と「統計情報」を新たに設けるとともに、従来の「産地情報」に企業等の取り組みを加えて「産地・業界情報」として拡充するなどの整理を行った。

この結果、巻頭言、特集、調査・研究、産地・業界情報、海外情報、いもと文化、おいも探訪、行政情報、統計情報、トピックス、編集後記、という構成となっている。

- ③ バックナンバーについては、これまで公開していた95号以降のものに加えて、創刊号から94号までをスキヤニングして画像ファイルとしてPDF化することにより、直近号までをオンラインで全て公開した。また、ユーザーの利便性を確保するため、ジャンル別、発行年別、さらにはフリーワード検索により、記事単位で検索・表示できるようシステムを拡充・整備した。

<http://ebook-viewer.com/imoshin/>

（2）調査研究事業

- ① 各種事典等の発行および頒布

平成21年度の「サツマイモ事典」、平成23年度の「ジャガイモ事典」、平成24年度の「サツマイモの近代現代史」、平成26年度の「焼きいも事典」、平成28年度の「干しいも事典」及び平成31年度の「清薯源流の砦 平成の歩み」の頒布に努めた。ただし、「サツマイモ事典」は在庫切れの状態にあることから、印刷原版のファイルからPDF形式に変換し、ホームページへの掲載の準備を進めた。

- ② かんしょ品質評価研究会の開催

かんしょ品質評価研究会は、サツマイモの食品加工メーカー等の実需者、農研機構等の育種研究者および関係機関が参画し、加工用途毎の特性に着目した適性品種の育種開発の加速化を目的として平成16年度から実施している研究会であり、事務局をいも類振興会に置いている。

令和4年度は、9のサツマイモ供試系統について、焼きいも、干しいも、ペースト、カット、いもようかん、大学いも、チップ・けんぴ、焼酎の用途別に、各担当社が品質評価試験を実施した。

その試験結果を、令和5年1月26日に、ウェブ会議方式で開催した令和4年度かんしょ品質評価研究会で分析・評価のうえ、「令和4年度かんしょ品質評価研究会・品質評価試験報告書」（令和5年3月）として取りまとめ、関係機関・団体等に配布した。

③ サツマイモ基腐病の現状と対応に関する情報交換会

南九州で猛威を振るっていたサツマイモ基腐病については、発生地域が全国に拡大していることから、日本かんしょ輸出促進協議会、日本いも類研究会との共催により、オンラインでの情報交換会を開催してきた。令和4年度には、発生状況や対策の実施状況と効果等について、12月20日にZoomウェビナーにより開催した。

情報交換会には全国から200名以上の参加があり、主要産地の研究機関や生産管理担当者、種苗供給、流通・加工など様々な分野の関係者から現地の状況についての報告があり、今後の対応に関する意見交換を行った。

④ ジャガイモシストセンチュウ類抵抗性品種の普及に関する情報交換会

ジャガイモシストセンチュウは、北海道内での発生面積が広がっているのみならず長崎、青森、三重、熊本県でも発生が認められているが、ポイントとなる抵抗性品種への移行が、青果用や加工用では進んでいない状況にある。このため、シロシストセンチュウも含めた抵抗性品種の普及に向けて、10月31日にZoomウェビナーにより情報交換会を開催した。当日は140名程度の参加者に対して研究成果を説明するとともに現場での取り組み状況や今後の対応について情報交換を行った。

④ その他

令和4年10月25日に、つくば市の農研機構食と農の科学館で開催されたゲノム編集天然毒素低減ジャガイモ研究施設見学会、11月12日に帯広畜産大学で開催された第1回日本バレイショ研究会、12月8日に熊本市のくまもと森都心プラザで開催された第34回いも類研究会に出席した。

(3) 知識啓発・普及事業

令和5年3月16日に、日本いも類研究会との共催により、栽培体系の機械化・省力化、軽作業化というテーマで、下記の講師4名による「令和4年度いも類講演会」をウェブ会議方式で開催した。講演会には、北海道から鹿児島まで200名近い参加があり、講師の許可を得たものについては資料や動画をインターネットに掲載した。

ア ばれいしょ栽培の省力化技術の開発

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 農業研究本部

十勝農業試験場 研究部 豆類畑作グループ 研究主査 青山 聡 氏

イ 種ばれいしょ栽培におけるソイルコンディショニング等
機械化新技術体系

東洋農機株式会社 監査役 大橋 敏伸 氏

ウ 青果用かんしょの省力機械移植栽培体系の確立

徳島県農林水産総合技術支援センター農産園芸研究課

総括研究員 村井 恒治 氏

エ かんしょ機械化一貫栽培体系による省力化の実現

井関農機株式会社 夢ある農業ソリューション推進部 部長 三輪田克志 氏

- ② 令和4年10月24日～10月28日に、農林水産省消費者の部屋で開催された「さつまいも・じゃがいもの週 ～おいものみりょく～」の催しに協力して、ばれいしょ19品種、かんしょ21品種を入手して展示した。加えて、関係機関・企業の協力を得て、ポテトサラダ、ポテトチップス、干しいも、けんぴ、焼酎、色素サンプルなどの、いも類関係の製品及び品種ごとの解説パンフレットなどの資料も展示した。
- ③ 令和4年11月20日に東京都青果物商業協同組合が開催した2022八百屋塾第8回「じゃがいも・早生みかん」において「じゃがいも」について講演を行った。
http://www.shoukumi.or.jp/htdocs/yj/yj_index_00.htm
- ④ 令和4年12月14日に札幌市のANAクラウンプラザホテルで開催された2022ポテトフォーラム（主催：農研機構北海道農業研究センター、日本スナック・シリアルフーズ協会、北海道馬鈴しょ協議会）を後援した。
- ⑤ 上記のほか、農畜産業振興事業団の野菜情報10月号の話題コーナーに「最近の焼きいもの動向」<https://www.alic.go.jp/chosa-y/202210.html> として寄稿したほか、関係機関・団体、マスコミ等からのいも類の知識啓発・普及に関する協力要請に対して積極的に対応した。

（４）日本いも類研究会事務事業

前年度に引き続き、日本いも類研究会の事務局として、その事務局業務を円滑に実施した。なお、日本いも類研究会の会員には「いも類振興情報」を1部ずつ配布している。

（５）いも類に関する情報の収集および提供

- ① 官公庁、試験研究機関、関係団体・企業、生産現場等から、国内外のいも類等に関する情報を収集・整理するとともに、照会・相談に対し説明を行った。
- ② いも類振興会の組織、事業活動、財務内容等に関する一般法人としての情報公開を、インターネットの共同サイト（（公財）公益法人協会）を通じて行った。